

自衛隊はイラクから撤退を

イラク派兵計画の延長に反対しましょう

自衛隊のイラク派兵基本計画では 12 月 14 日に、派兵期限切れを迎えます。ところが、政府は、「日米同盟が大事」といって、イラク派兵計画を延長し、いつまでも自衛隊を派兵し続けようとしています。

しかし、もともとイラク戦争は、国連も認めない、大義なき侵略戦争でした。イラク市民が 10 万人も犠牲になったという発表もありました。こうした占領軍の支援のために自衛隊は派兵されているのです。

イラク国民の批判と抵抗がつづき、

38カ国いた外国軍もすでに10カ国が撤退したり、撤退しようとしています。こうしたなかで、イラク派兵を続けようとする日本政府の態度は、まったく異常です。

日本の自衛隊を守ってきたオランダ軍も来年3月には撤退します。自衛隊の宿営地には、すでに8回も攻撃がおこなわれています。

武力の行使をしないという憲法に違反するという点からも、また戦闘地域には派兵しないという政府の説明からも、派兵延長は、成り立ちません。



写真は米軍機の攻撃で負傷し、病院に収容されたイラク人母子

アメリカ政府調査団も認める

“イラクには大量破壊兵器はなかった”

アメリカがイラク戦争の口実にした「大量破壊兵器」。しかし、アメリカ政府調査団は「もともとそういう計画はなかった。これからは見つからない」と発表しました。デタラメな口実で、多くの市民が犠牲になったのです。戦争を支持した小泉首相の責任も重大です。

イラク国民は占領軍の撤退をのぞんでいます。イラク国民が主権を回復したもとの国づくりを、国連中心に復興支援しましょう。